

第6回 農業と環境の持続可能性に関する研究会

今回は、北海道で長年、CSAを通じた地域づくりに取り組まれているレイモンドさんに題提供をしていただきます。

日本社会は、今、規模拡大、儲かる農業の推進の影で、農業と共に創生・維持・保全されてきた地域社会、農村社会の崩壊が始まっています。人々のいのちを育み食を培い、暮らしの礎を成す農業は、私たちの市民生活と切っても切れない関係にあります。しかし、今、その関係がどんどん見えなくなっています。

レイモンドさんは、アメリカ生まれ、カナダでコミュニティオーガナイザーとして地域創りに関わった後、来日されて20年以上前からCSAを実践されています。歴史学、平和学、アグロエコロジー、聖書研究をバックグラウンドに農業に取り組まれているレイモンドさんを囲み、農業と環境の持続可能性のあり方について議論を深めます。皆さまのご参加をお待ちしています。

(文責 澤登早苗)

日時：2018年9月17日(月) 10時～12時半

場所：立教大学池袋キャンパス本館 1203教室

話題提供：レイモンド新理事

標題：「足元からの農業と市民生活の再生

(原題 *Renewing agriculture and civic life from below*)」

資料代：500円

参加申し込みは不要です。

話題提供は、英語で行いますが、隨時、日本語での解説が入ります。